

平成26年度の事業報告書

特定非営利活動法人アルファバドミントンネットワーク

1 事業の成果

(1) 各事業を通じ、私たちの趣旨と目的を周知し、会員数を増やすことができた。

(2) 事業の概要

1) イベント事業

①アルファキャンプ

7/12.13

西武台千葉高校第2体育館

延べ参加者数：110名(西武台千葉中学・高校バドミントン部、慶應義塾大学男子バドミントン部、他)

講師：高瀬秀雄

スタッフ：理事2名、会員1名

1日目はダブルスラリーの組み立てと要求される技術、2日目はダブルスゲームの組み立てと要求される戦術と題して、実践形式で練習会が行われた。遠方より参加した選手は、地元選手宅にホームステイし交流を深めた。

②アルファレッスン

12/6、1/24

西武台千葉高校第2体育館

延べ参加者168名(市内及び近隣市町村の小学生～高校生)

スタッフ：理事、会員延べ14名

子どもゆめ基金助成活動[幸せなら羽たたこう]

小学生から高校生を対象に、2回連続グループレッスン形式で行った。参加者を野田市報や市内体育館掲示により公募したところ、野田市のみならず近隣市町村から申し込みがあり、1日目82名、2日目86名の参加となった。参加者を年齢、経験混在の6グループに分け、練習内容はグループの自主に任せ、スタッフや指導者はサポートに徹した。最初は子ども同士はぎこちなかったが、グループ毎に目標や決まりを定め、高校生が小学生を指導する様子が随所で見られた。高校生にとっては競技練習のみならず他者との関わり、リーダーシップを学ぶ良い機会となった。

③アルファカップ

3/7(土)

西武台千葉高校第1体育館、第2体育館

参加者：110名(関東地区中学生、高校生)

スタッフ：理事2名、会員2名

午前中は8面、午後から14面展開だったため、昨年より参加チームを減らし24チームによる2複1単のチーム戦形式で開催した。昼食時間を設けず9:00から17:00まで5対戦行った。この大会は参加チームにとって新年度に向けてのチーム作りに位置づけられており、次年度も継続参加を希望する声が多い。

④ハイブリッドマラソン大会

2/14 9:00～12:00

野田市内土手コース、西武台千葉高校食堂他

参加者：西武台千葉中学校・高等学校バドミントン部・陸上長距離部 50名

スタッフ：理事1名、会員2名、他1名

日頃教室で机を並べる仲間の部活動を体験する企画。学校正門から利根川土手までの14kmコースを、陸上長距離部はマラソンで、バドミントン部は駅伝形式で競い合った。事前にスタッフがコースを下見し、当日は要所に案内を置き10時に正門をスタートした。その間にスタッフがすいとんを作った。所要時間1時間ほどで全員が無事ゴールした。完走後食堂ですいとんと生チョコを食べ参加者が交流を深めた。

2) 競技力向上事業

①アルファクラブ

水曜 16時～18時 38回開催

関宿総合公園体育館

延べ参加者数：480名（市内及び近隣市町村の幼児～高校生）

スタッフ：4～6名/回(理事2名、会員3名、他1名)

子どもゆめ基金助成活動〔対話型スポーツによる異世代交流〕

10月から3月の活動は子どもゆめ基金助成対象活動となったため、9月に参加者を公募したところ近隣小学生が多数加入した。当初はコート数2面で実施していたが、公募後参加者が増えたためコート数を3面に増やした。バドミントン指導を通じて子ども達が主体的に「話す、書く、聞く」活動を取り入れている。また子ども達が異年齢による集団活動を体験する場となっている。子ども達の放課後居場所作りに貢献している。

3) 教育研修事業

①アルファスクール

6/28 10:30～12:00

西武台千葉高校多目的ホールにて

講師 高瀬秀雄氏

参加者 45名（市内中学生～一般）

講義「トマス杯・ユーパー杯から見たバドミントンの戦術と構造」

トマス杯・ユーパー杯の映像を交えながら、日本チームの勝因を分析しながらバドミントンの戦術について講義を受けた。

②アルファアカデミー

12/13 9:00～12:00

西武台千葉高校第2体育館

参加者：86名（関東地区小学生～一般）

講師：鈴木雄太、白井巧

テーマ：難民キャンプの子ども達に夢を贈ろう！

子どもゆめ基金助成活動

前半は鈴木氏、白井氏のトーク、後半はお手玉作りの2部構成で行った。中高生に鈴木氏のグローバルな生き様を伝えるべく、鈴木氏のこれまでの歩みとヨルダンでの活動について、映像を交えながら白井氏とのトーク形式による講演会を行った。トークには飛び入り参加で、同じく難民キャンプ支援に携わっている青年が加わり、更に中央大学学生団体によって難民キャンプの子ども達の様子を伝える人形劇が上映され、参加者がより難民キャンプについて理解を深める事ができた。後半は参加者全員で子ども達に贈るお手玉を手作りし、それぞれに思い思いのメッセージを描き込んだ。即日86個のお手玉をヨルダン難民キャンプに発送したところ、後日お手玉で遊ぶヨルダン難民キャンプの子ども達の写真が届き、無事到着したことが確認できた。

人形劇で参加していた学生団体は、別途途上国こども教育支援活動を行っており、彼らの活動を支援するためにこの機会を利用して参加者に古本の寄付を募った。多数の古本が集まり、学生団体に全て寄贈した。

4) 交流事業

①モルディブ交流

2/14～2/28

モルディブよりバドミントン協会理事長ムーサ氏が来日した。モルディブ共和国のバドミントン代表選手強化を図り2020年東京オリンピック出場を目指すムーサ氏は、選手強化を更に進めるために日本の支援を確立することを目的として来日した。国内での広報活動を白井理事と共に精力的に行った。その際次年度の企画として、モルディブのジュニア選手強化を日本で行うこと。その際当団体がサポートすることを約束した。ムーサ氏は20年前に同国強化選手として野田を訪れている。ムーサ氏帰国の際、20年前の仲間が集い、20年前、今、そして2020年に向けての思いを共有し、市内レストランにて送別会を開いた。

5) 普及啓発事業

①ニューズレター発行

5月、9月、2月に発行した。

②ホームページ運営

フィスブックを立ち上げ、ホームページに連動した。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日	実施予定場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
(1) イベントの開催事業	① スポーツ教室の開催(アルファキャンプ)	7/12.13	市内の体育館	3人	中学、高校生、大学生、一般 110人	2.0
	② アルファレッスン	12/6.1/24	市内の体育館	14人	小学生、中学生、高校生 168人	166.3
	③ アルファカップ開催	3/7	市内の体育館	4人	中学、高校生、大学生 一般 110人	59.3
	④ ハイブリッドマラソン大会	2/14	市内のコース	4人	50人	4.7
(2) 競技力向上事業	① 競技指導(アルファクラブ)	毎週水曜日 38回	市内の体育館	6人	480人	324.0
	② 遠征、合宿受け入れ支援	随時	市内の体育館	5人	不特定多数	0
(3) 教育研修事業	① 勉強会の開催(アルファスクール)	6/28	市内の会議室	3人	中学、高校生、一般 45人	0
	② 勉強会の開催(アルファアカデミー)	12/13	市内の会議室	9人	小学生、中学生、高校生、大学生、一般 40人	174.3
(4) 交流事業	① モルディブ交流	20/20 ~ 2/28	市内のレストラン等	6人	不特定多数	26.1
	② 地域交流(イベント)	実施せず				

	ト参加)					
	カナダ学生交流	実施せず				0
(5)調査研究事業	勉強会の開催	通年	法人事務所	6人	不特定多数	0
(6)普及啓発事業	①ニューズレター等を発行し、活動内容を紹介する。	5.9.2月	法人事務所	2人	不特定多数	44.0
	②指導者講習会の開催	実施せず				0
	③ホームページ運営	随時	法人事務所	2人	不特定多数	24.9